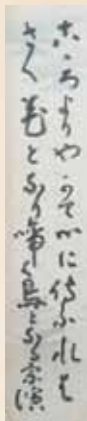


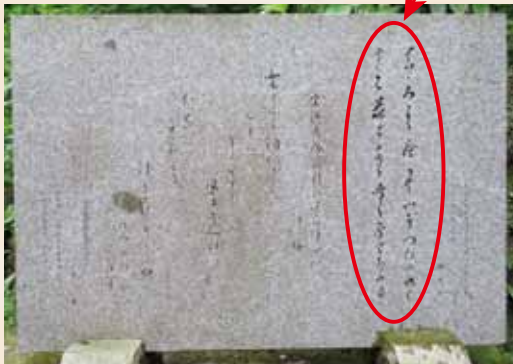
## 積宗演と交流があった人々

- ◆三原田宗元[みはらだ そうげん] (実業家)  
和田の本郷家生まれで積宗演の幼な友達  
最初は僧を目指したが実業界に入り、東京に和菓子製造問屋「三原堂」を設立  
積宗演上京時には出向き、昔話に花が咲いた
- ◆山岡鉄舟[やまおか てっしゅう] (幕臣、政治家、思想家)  
剣、禅、書の達人で江戸無血開城の勝海舟と西郷隆盛の会談をお膳立て  
積宗演セイロン行き最大の支援者
- ◆福澤諭吉[ふくざわ ゆきち] (蘭学者、思想家、教育者)  
慶応義塾を創設  
積宗演の慶應義塾での立ち振る舞いから、「この僧、他日必ず一山の貫主であろう」と見抜いていた  
積宗演セイロン行きにも支援
- ◆鈴木大拙[すずき だいせつ] (世界的な宗教学者)  
積宗演に参禅し、「大拙」の居士号を授かる  
シカゴ万国宗教大会での演説文を英訳  
積宗演の命により、11年間渡米し仏教、禅を世界に広める
- ◆夏目漱石[なつめ そうせき] (小説家、英文学者)  
小説「坊ちゃん」等を執筆  
積宗演に参禅した時の体験を小説「門」に書いた  
漱石葬儀の導師は遺言により積宗演がつとめる
- ◆佐佐木信綱[ささき のぶつな] (歌人、国文学者)  
積宗演に和歌を教えた  
積宗演が作った和歌「楞伽窟歌集」を発行(大正10年)

## 積宗演が詠んだ和歌



積宗演自筆



積宗演と佐佐木信綱(歌人)との合同歌碑  
東慶寺(神奈川県鎌倉市)

# 若狭高浜が誇る

# 偉人



しゃく ぞう えん  
釈 宗 演

こころよりやがて心に伝ふれば  
さく花となり啼く鳥となる

※大切な教えを人から人へ、心から心へ  
伝えていけば、それは必ず花となつて  
開くであろう、鳴く鳥となつて  
現れるであろう。

積宗演を顕彰する会  
0770-72-1353

「福井県歴史資源魅力創出支援事業」助成対象事業

## 「釈宗演」とは？

- ・安政6年(1859)に、高浜町若宮の一瀬五右衛門家の二男として誕生。幼名は常次郎。長福寺(元寺子屋)にて、読み書きを習う。
- ・10才の時、親戚にあたる「越溪守謙」に付き出家し京都の妙心寺に入る。その後、京都建仁寺、岡山曹源寺、鎌倉円覚寺等で修行し、満23才で円覚寺派管長「洪川宗温」から印可証明を受ける。
- ・僧でありながら慶応義塾で洋学を学ぶ。また、セイロン(現スリランカ)へ行き、南方仏教を修学。
- ・帰国後、弱冠32才で円覚寺派管長に就任し、明治26年(33才)にはシカゴ万国宗教大会において、日本代表として日本仏教について演説。
- ・多くの政治家、文人、実業家、軍人、女性、外国人が参禅・面会に訪れる。
- ・明治38年(45才)再度渡米し、禅「ZEN」を布教。海外で禅を広めた日本人第1号。その後国内のほとんど、そして中国・台湾等海外へも積極的に出向き布教を行う。
- ・大正8年(1919)、59才にて鎌倉東慶寺において死去。



①生誕地の碑  
50回忌時(昭和43年)に建立。当時の円覚寺派管長 朝比奈宗源筆

城山公園



②元寺子屋(長福寺)  
幼児期に読み書きを習う

③佐伎治神社



③佐伎治神社の社号碑  
釈宗演筆(明治43年)

石川県 志賀町  
(若狭高浜の姉妹都市)



⑤高浜町開祖の碑  
移住した高浜出身者が大正10年に建立、釈宗演筆

④和田の忠魂碑  
釈宗演筆(明治44年)

